



## ごあいさつ

この度、弊社紫波町の拠点店舗の移転新築に対し心より深く感謝申し上げます。1985年には紫波町の旧店舗を、1997年には矢巾町の現店舗をお世話になりました。そして3度目の2015年本店舗は、私の生い立ちや思いを同世代として親身に理解頂いた担当設計士様に、地域の状況と未来を見据えて機能的にもデザイン的にも環境的にも危機管理的にも素晴らしい大満足の社屋を設計して頂きました。

## 有限会社金子新聞販売 紫波本社

施工地／岩手県紫波郡紫波町日詰字丸盛  
214番地1  
竣工年月／平成27年5月  
敷地面積／2,508.29m<sup>2</sup>

延床面積／事務所棟：779.02m<sup>2</sup>  
自動車庫：144.00m<sup>2</sup>  
構造／事務所棟：鉄骨造2階建  
自動車庫：鉄骨造1階建



ロードヒーティングが施された社屋北側エントランス

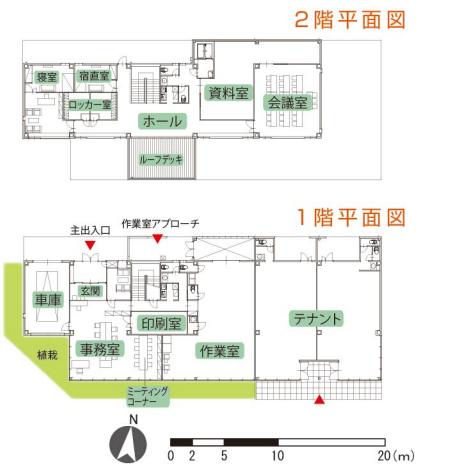


JR紫波中央駅を中心とした  
オガールエリアに近接する立地の紫波本社

配置図・平面図



配置図



## 災害に強く、職務環境に配慮

金子新聞販売様は当初、新社屋の建設はJR紫波中央駅周辺の整備に合わせて計画されましたが東日本大震災とその後の豪雨災害などによる被災で計画延期を余儀なくされ、新しく体制と環境が整い、この度の移転新築となりました。日々の情報サービスアンカーとして安全で安定した業務の継続とサービスの向上は最重要の責務であります。

本施設は敷地を軟弱地盤に耐えうる強固な基礎形状にしたうえに建物自体の構造体には無理のない形状のシンプルな架構としました。深夜に新聞印刷工場から搬入されたその日の新聞を早朝に配達する業務は一層の効率化が求められます。1階は全面ガラス張りの広く明るい執務環境をつくりだすとともに作業室を建物中央に広く設け、事務作業空間とは分離させて業務上の無駄が全くない空間配置と作業動線を確保し、職務の機能向上につなげております。2階にはロッカー更衣室、ユニットバス、リフレッシュができるホールとルーフデッキなどを完備し、一日の稼働時間が長い新聞販売店ならではの配慮をしております。また、敷地内の広い駐車場は、災害緊急時には地域の方々の避難所ともなるように計画いたしました。夏休みなどでイベント開催時には周辺住民に多目的広場として開放しております。



昭和戦前の社屋店舗の様子



自然光が差し、明るく開放的な事務室



広く快適で衛生的な作業室



リフレッシュに最適なラウンジホール

## 積極的な環境対策を推進

金子新聞販売様は社屋の屋上には16.72kwの太陽光パネルを設置し、業務には電気自動車を活用しております。さらにペアガラスの採用、社屋照明の総LED化、エコ設備(エアコン、トイレ、建物構造)の導入など徹底して環境対策を推進し、将来にわたり持続可能なエネルギー活用を図り、紫波町のエコショップ認定事業所にも選定されております。



電気自動車と多目的広場にもなる駐車場



地元中学生の職場体験学習



視聴覚設備を整えた会議室